

高校の中国語教育 教諭ら理想像探る

あわらで全国大会開幕

全国の高校中国語教諭らでつくる「高等学校中国語教育研究会」全国大会(福井新聞社後援)が17日、あわら市で開幕した。講演を通して教育の理想像を探った。



同研究会は1982年発足。研究会や教科書発行、生徒の中国派遣などに取り組み、現在の会員数は福井県の

10人を含む約200人。全国大会の福井県開催は2回目、約60人が参加した。初日は3人が講演。このう

ち、福井市出身の内田慶市・関西大教授は、日本文化と中国語が密接な関係にあるとした上で、外国語教育にはその国の歴史や文化を伝えることが不可欠と強調した。写真。最終日の18日は三つの分科会を開き、敦賀気比高の浅田真由美教諭らが実践発表する。(重森昭博)